



絆 きずな

平成25年7月
第32号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

絆ネットワークへのご協力を

校長 齊藤 進

本校は、防災教育の重要性を踏まえ、昨年度、南千住第二中学校レスキュー部をつくりました。全校生徒の四分の一にあたる、65名の部員が集まり、防災宿泊訓練、地域町会防災訓練参加、地域安全マップ作成、防災施設見学、避難訓練補助、社会を明るくする運動パレード参加などの活動に取り組みました。今年度は新たに募集したところ、80名の部員が結集し、8月23日(金)、24日(土)に行われる防災宿泊訓練を皮切りに活動をスタートさせます。

そこで、新たな試みとして、地域の方々と本校生徒をつなぐ、「絆ネットワーク」をつくることになりました。発生確率が高まっていると言われる首都直下型地震、南海トラフ等大きな災害が発生したとき、中学生レスキュー部員が複数で一人暮らしのお年寄りや障がいのある方々を支援するシステムです。特定の部員が決められた地域の方々と顔見知りになって、いざ、という時に避難所への案内、避難所での生活支援等を行うことを目的としています。すなわち「おじいちゃん、おばあちゃん、あなたを支援するのは私ですよ。」と生徒と地域の方々とのつながりをつくるのです。はじめに、部員が3~4名一組となって、防災宿泊訓練の通知文や学校だより、行事の案内等をもって自宅にいきます。個人情報管理には細心の注意を払いますが、ご協力いただいた方々を登録することで、生徒が卒業しても引き続き支援が可能となります。

保護者、地域の皆様には絆ネットワークの対象となる地域の方々をご紹介くださるようお願いいたします。

このたびレスキュー部員が着用するオリジナルのピブスを日本赤十字社のご協力と荒川区学校パワーアップ予算で作成することになりました。校名と赤十字マーク等が入るデザインとなります。



実際のピブスの形とは多少異なります

第25回 運動会



6月15日(土)、南千住二中第25回運動会が行われました。梅雨入りの中、天候が心配されましたが、好天に恵まれ、予定通り全種目を実施することができました。

開会式では、運動会実行委員長(3-2)の、力あふれる選手宣誓が行われ、吹奏楽部の演奏に合わせて校旗が高々と掲揚されました。つづく全校でのラジオ体操は、練習の成果を表す一糸乱れぬ、心のこもった演技をすることができました。

開会式直後は長距離走。女子1000m、男子1500mが行われました。全学年トップでゴールしたのは、女子3年2組、男子3年1組の選手でした。つづいて各学年の学年種目。2年生の種目の後には、「小学生も挑戦」コーナが設けられ、20人ほどの小学生が参加してくれました。



薬師寺三重の塔と金堂が完成!

圧巻は3年生学年種目。競技の前には修学旅行の思い出を組み体操で表現した「薬師寺」を披露しました。中央に男子による肩上4段ピラミッド(金堂をイメージ)、両脇に女子による3段タワー(東塔と西塔をイメージ)で、みごとに薬師寺を完成させました。協力して演じた組み



1年生三輪ピック

体操の後は1組2組に分かれての棒倒し。さすがしい、素晴らしい対戦でした。1年生の三輪ピックは、スピードとかしこさが要求される競技で、1年生のかわいらしさも相まって大いに会場をわかせました。次に各学年の短距離走。どのレースも手に汗握る接戦が繰り広げられました。午前の部の最後はPTAの綱引き。たくさんの地域の皆様、保護者の方々に参加していただきました。生徒の飛び入りの応援もあり勝敗は引き分け。楽しいひとときでした。



午前の部終了時点で各学年とも接戦で、勝敗の行方は午後の部に持ち越されました。

さて、おいしい「お弁当給食」後の午後の部は全級リレー、綱引きと続きました。各学年趣向を凝らした綱引きでしたが、2年生はオーソドックスの真っ向勝負。何と3クラスの対戦成績が全て1勝1敗の五分となりました。引き分けかと思いきや、生徒から「もう一回」の声が上がり、本部の判断で延長戦を行うことになりました。しかし、結果はまたもや1勝1敗の五分。仲良く3クラス引き分けとなりました。

そして、最後の種目は学級対抗リレー。各クラス選抜の精鋭が、^{いたてん}韋駄天ぶりを発揮してくれました。1日を通して声援した応援団も、今年の見所の1つでした。学年を越えて、同じ色のクラス(1組赤、2組白、3組黄)に工夫を凝らした声援を送る姿が印象的でした。学級対抗リレーの時は、声がかかるまで声援を送っていました。

全ての競技を終えての閉会式では、優勝クラスの発表がありました。1年生2組、2年生3組、3年生2組の発表に、大きな歓声とため息が...。しかし、どの学年にも暖かい拍手が送られました。最後に吹奏楽部の演奏で、勝ったクラスも負けたクラスも大声で校歌を歌い、気持ちよく運動会の幕は閉じられました。



応援も盛り上がる

前期生徒総会

運動会を前にした6月7日(金)には、前期

生徒総会が開かれました。生徒会本部を中心にして、各専門委員会で、活動方針や活動計画が練られ、中央委員会を経てこの日を迎えました。

総会では、**生徒会活動の基本方針や行動目標**が生徒会

本部から示され、**各専門委員会の活動方針**が提案されました。それに対し、各クラスでの討議を経た質問や修正案、そして賛成意見などが活発に出されました。こうして各クラスの代表の意見に、専門委員長が回答する形で総会は厳かにすすめられました。このやりとりを通して、生徒会活動の重要性と自分自身が生徒会会員であるという自覚も生まれ、各委員会の活動に協力していこうという気持ちがつくられました。



生徒会長が始めのあいさつ

質疑応答の後、生徒会員全員、つまり全校生徒の起立によって議案は全て可決されました。

最後に各クラス、各学年の目標が発表され、生徒総会は無事終了しました。



全校生徒が口の字形に



生徒会本部役員と議長団

地域めぐりと伝統技術展見学

7月9日(金)、1年生は校外学習として「南千住の地域めぐり」と「あらかわの伝統技術展」の見学に出かけました。この校外学習は、地域学習の一環として、スポーツセンターで行われている

伝統技術展の開催に合わせて、毎年1年生が行っている行事です。

この日は小雨が混じる天気でしたが、午前中は「検定本」を片手に地域の史跡や文化財、ふるさと文化館などを見学しました。事前に各グループでコースを考え、その計画に沿っての見学でした。素盞雄神社や回向院、涙橋や赤レンガ塀...。たくさんのお見学場所をまわり、スポーツセンターに集合しました。

スポーツセンターでは大体育室のギャラリーをお借りして、お弁当を食べました。すぐ下のフロアでは技術展が行われていますが、

毎年、周囲のようすに配慮して静かにお弁当を食べる南千住二中学生は評判です。

午後からはその伝統技術展を熱心に見学し、職人さんからお話をお聞きしたり、実際に体験させていただいたり、有意義な時間を過ごすことができました。お世話になった地域の方々、職人さん、ありがとうございました。



傘と検定本を片手に



伝統技術展で体験



部活動の活躍

夏季大会(選手権大会)が行われています。3年生は最後の公式大会です。これまで3年間の思いが詰まった大会です。

バスケットボール部

【男子】荒川区夏季選手権大会 兼 総合体育大会出場

【女子】荒川区夏季選手権大会 兼 総合体育大会 2回戦進出

バレーボール部

【男子】(荒川五中との合同チーム)荒川区夏季選手権大会 兼 総合体育大会 **準優勝**

東京都第5ブロック夏季選手権大会 **第3位**

東京都夏季選手権大会出場 兼 総合体育大会出場決定

【女子】荒川区夏季選手権大会 兼 総合体育大会 第5位

東京都第5ブロック夏季選手権大会出場

陸上競技部

支部対抗陸上競技大会 砲丸投げ **準優勝(10m19)** 3年生

東京都選手権大会 兼 総合体育大会、全日本通信陸上競技東京都大会 **7位入賞(10m92)**

ソフトテニス部

【男子】荒川区夏季選手権大会 兼 総合体育大会 団体 **準優勝**

東京都夏季選手権大会出場 兼 総合体育大会 男子団体出場決定

【女子】荒川区夏季選手権大会 兼 総合体育大会 個人 **第3位**

東京都夏季選手権大会出場 兼 総合体育大会 女子個人出場決定

南千住マイスターのコーナー

さて、この瑞光石にまつわる、こんな言い伝えがあります。万延元年(1860)編纂の『江戸近郊道しるべ』という書物によると、瑞光石の根元は隅田川まで伸びており、千住大橋を築く時に橋脚が打ち込めなかつたといわれています。そのため、千住大橋の橋脚は間隔が不揃いだといわれています。前号・前々号で紹介した「片目の大鯉の通り道」や「千住大橋の亀の間」にも通ずるものです。いずれにしても千住大橋架橋が大変な難工事だったことが、こうした言い伝えを残しているのだらうと思われれます。

また、この瑞光石は、古墳の一部だらうという説もあります。この一帯に「古墳群」があったとされる説もあります。私たちの南千住について調べるほど「すごいところ」です。

「瑞光石」。南千住の人ならば誰でも知る、素盞雄神社の境内に祀られている奇岩です。社伝によれば、修験道の開祖・役小角の高弟である黒珍という人物が、住居の東方にある奇岩のある塚上を豊場とし、日夜齋戒礼拝していた所、延暦14年(795)4月8日の夜、小塚の中の奇岩が突如光りを放ち、スサノオ大神、アスカ大神の二柱の神が老人の姿を借りて降臨し、「吾れを祀らば疫病を払い、福を増し、永くこの郷土を栄えしめん。」と御神託を授けられたのを受け、黒珍が祠を建てたのが素盞雄神社のはじまりであるとされています。この「小塚」から「小塚原」の地名も生まれたようです。また、南千住一帯が瑞光地区と呼ばれるのも、この瑞光石が由来と言われています。

『瑞光石の根』
千住の言い伝え(素盞雄神社)

